

## 人形町のパチンコ屋さんでの話

最近景気が良くなっているらしい。アベノミクスというやつだ。景気の話をするといつもパチンコ屋さんでの事を思い出す。

平成24年2月頃、厚生労働省老健局主催の会議に毎月参加してただけど、いつも人形町のパチンコ屋さんで一休みして群馬に帰ることにしていた。

人形町のパチンコ屋で知り合ったおっさんで、このヒトはホームレス風の容姿だが東京都産業労働局金融部のエリートだったという。

平成20年のリーマン・ショックは日本経済を地獄にした。当時、東京の2割の世帯は貯蓄がない統計だったため、東京都は未曾有の失業者とホームレスの増加を予想した。

公務員の大規模な人員削減の動きがあるだろうと、そのおっさんは早期退職制度を利用して今は悠々自適の生活らしい。

おっさんは「日本は物価や賃金を下げてリーマン・ショックを凌いだ。デフレだ。賃金デフレを起こして失業者を抑えた。しかし、これは対症療法だ。景気は良くなるはずがない。どの国の会社でも経営不振になれば解雇者を出して経営再建をするのだが、日本はやらない。企業は成長戦略で解雇という方法で解決すべきだ。」と言うのだ。

そして、「これからの政府がやる仕事は、解雇者が安心して暮らせる社会保障を設計することなんだ。企業は解雇者をどんどん出して成長性のある分野の経営戦略をたてて、そこで雇用を促進すれば経済はグルグル回るんだ」と話し続けていた。

群馬県のパチンコ屋には、あんなおっさんは絶対いない。1330万人が住む東京は計り知れない知恵の集合体だと思った。

アベノミクスは金融政策、財政政策、民間投資成長戦略の「三本の矢」の方法で景気回復を狙っている。社会は人の集合体だ。

お金中心の解決よりも、おっさんの言っていた「社会保障充実をして解雇者グルグル論」のほうが私にはよく思える。

政府には大胆な社会保障政策をしてほしい。消費税を増税するわけだから、ちゃんとやってくれよな。